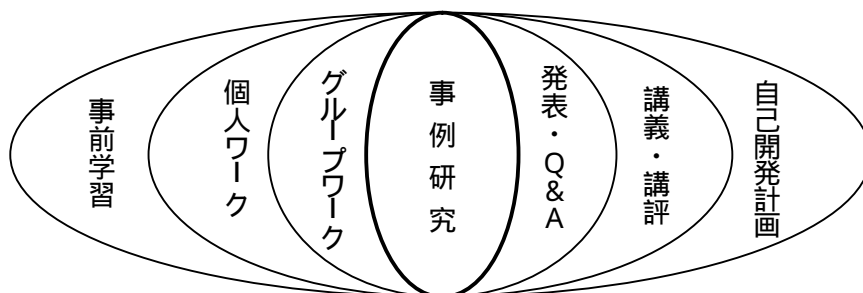


MTS Management Thinking Study

状況対応型
リーダーシップコース



<内 容>

はじめに

1. 本コースの狙いと考え方
2. 本コースの目的と内容
3. 本コースの進め方と方法
4. テキスト構成
5. 研修カリキュラム
6. 実施要領

日本コンサルタントグループ

はじめに

激変する環境変化と求められるリーダーシップ

今日の我国では、国際的大競争、インターネット等情報化の急進など経営を取り巻く環境は日々変化し、まさにカオスの時代を迎えています。

日本の企業は、今日まで終身雇用、年功序列、そして多階層のもと、いわゆる日本型経営を進めて発展してきました。しかし激変する環境下、企業が生き残り、新成長軌道に乗せるには、新たな価値観に基づく経営とそれを遂行する強いリーダーシップが求められております。

特にこのような時代こそ、組織の中核としての管理者にはリーダーシップ力をベースに、

- 管理者自身が自部門の将来構想を明確にもち
- 内外の環境変化を直視し
- 部下を巻き込んで、自分に与えられた権限をフルに活用し

組織目標を着実に達成できる管理者が求められています。

特に今日、成果主義人事が各企業で進展する中で、「個」に視点を置いたリーダーシップが要求されております。

本コースの理論背景

本コースは数あるリーダーシップ理論の中で、「S L 理論（状況対応型のリーダーシップ）」を基軸にしています。S L 理論は、Hersey & Blanchard が提案して以来、成果主義が中心の欧米において最も実践的に活用されている理論で、過去 25 年以上産業界で最もよく知られ、毎年 100 万人以上の管理者が学習・活用していると言われています。

効果的なリーダーシップを発揮するためには、己を知り部下を知り、そして部下にどのようにかかわっていくかが基本となります。

本コースの開発に当たって

本コースは、愛知学院大学・同大学院 松原敏浩教授と椋山女学園大学 林文俊教授の御指導をいただきながら開発いたしました。

1. 本コースの狙いと考え方

1) 本コースの狙い

受講者それぞれのリーダーシップ行動を確認するとともに、部下のレディネス(成熟度)を把握し、状況に応じたリーダーシップ発揮のしかたを修得することを狙いとします。

具体的には、

- (1) 部下のレディネスを把握する。
 - ・ 部下の行動を通してレディネス(職務と心理)を把握し、部下の本質を掴む。
- (2) 自己のリーダーシップ・スタイルを認識する。
 - ・ 日常活動の中で部下に対する自己の行動パターンを再確認する。
- (3) 部下のレディネスに対応したリーダーシップ発揮のしかたを修得する。
 - ・ 部下に対する理解を深めることにより、部下の育成に役立てる。

以上のように考えます。

2) 具体的な考え方

本コースは単なる知識賦与的な講義形式ではなく、受講者一人ひとりが常日頃の自分を見直しながら参画する内容とします。

- (1) 日常業務活動の中で、何気なく対応している部下について再認識するとともに、自己のリーダーシップ・スタイルを事例を通じて再確認します。
- (2) 具体的事例については次のとおりです。

<事前学習> 事例の部下に対して自らがどういうリーダーシップ行動をとるかを研究します。

- ・ A君に対する悩み
- ・ キャンペーン企画
- ・ 同僚との対話
- ・ Y君への対応

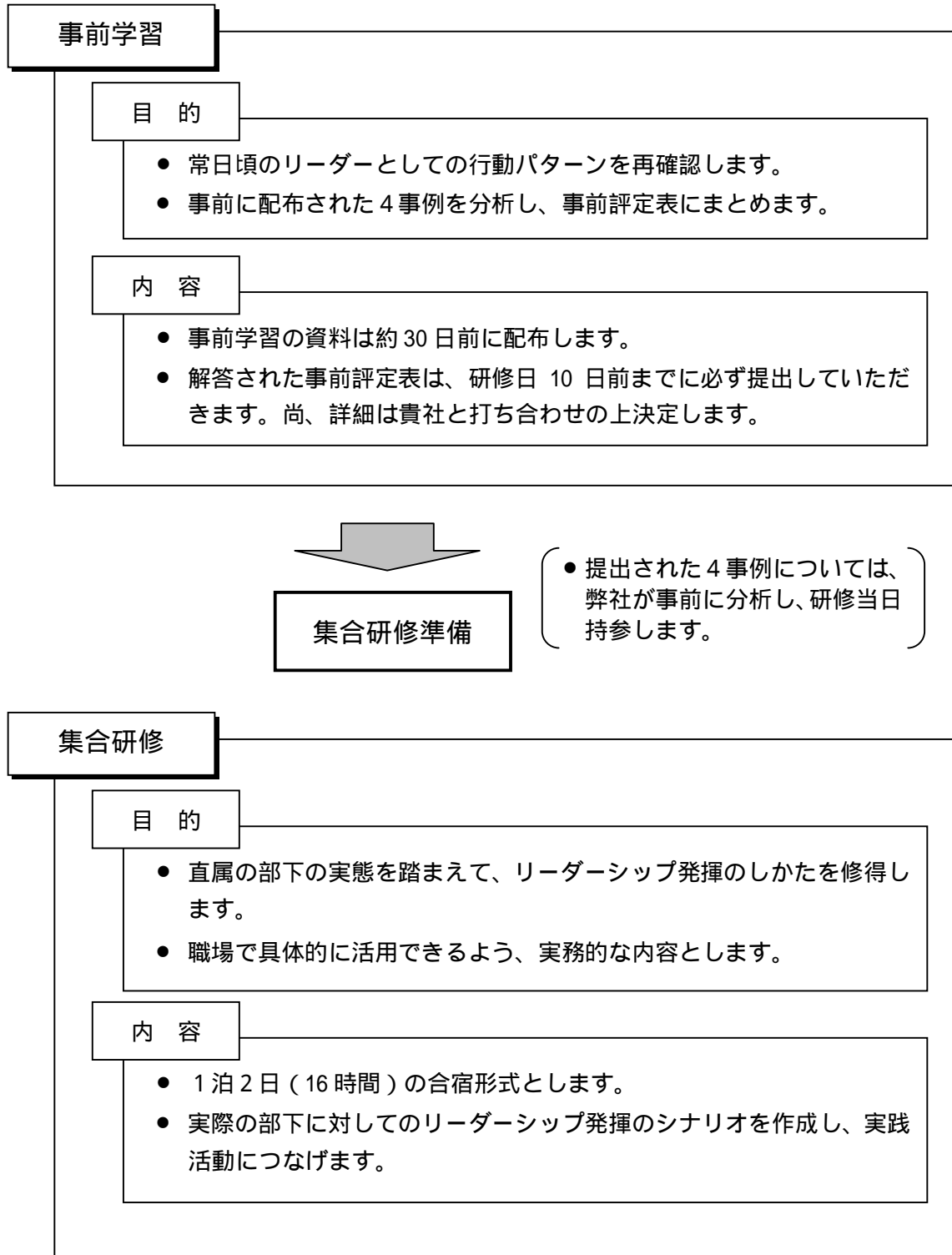
<集合研修> 自己のリーダーシップ・スタイル分析とリーダーシップの発揮の仕方を習得します。

- ・ A課長と4人の部下
- ・ B課長の職場運営

- (3) 本コースは1泊2日(17時間)の合宿形式と事例を中心とした事前学習を併用します。
- (4) 本コースの全体構成は、M T S「状況対応リーダーシップコース」を軸に貴社の意向を踏まえて実施します。

2. 本コースの目的と内容

本コースは事前学習と集合研修を併用しますが、それぞれの概要と進め方は次の通りです。



3 . 本コースの進め方と方法

1) 進め方

具体的に実施するに当たっては、「MTS」の基本コンセプトであります“シンキング・プロセス”を大切に次のような考え方で進めます。

(1) 本研修は、1泊2日(16時間)の合宿形式で行う集合研修と事前学習を併用します。尚、貴社と事前に打ち合わせを行い、方法・内容は決定します。

(2) 集合研修の進め方は次の3点にポイントを置いて進めます。

本コースは講義形式を極力少なくし、事例を中心にできるだけ受講者に「読ませ」「考えさせ」「話させ」「演じさせる」という参画度の高い方式とします。

ケーススタディやシンキングシートを使って、個人ワーク、グループワークを併用し、受講者が主役となった進め方をします。

本コースで使用する事例については、ご要望により貴社の職場で発生した問題を取り上げることも可能です。その際には、事前ヒアリングを実施させていただきます。

2) 方法

レディネスの異なる部下に対して、どのようなリーダーシップ行動を発揮するかを事例を通して修得します。

また、実際の部下のレディネスを把握し、職場で実践していただきます。

部下のレディネスとは

効果的なリーダーシップを考える時、従来はどのようなリーダーシップ・スタイルがよいかが議論されていましたが、近年は状況によってリーダーシップ行動を変えていく必要があるという考え方が重視されています。そのためには部下の状況、即ちレディネス(成熟度)に応じてリーダーシップを発揮することが求められます。

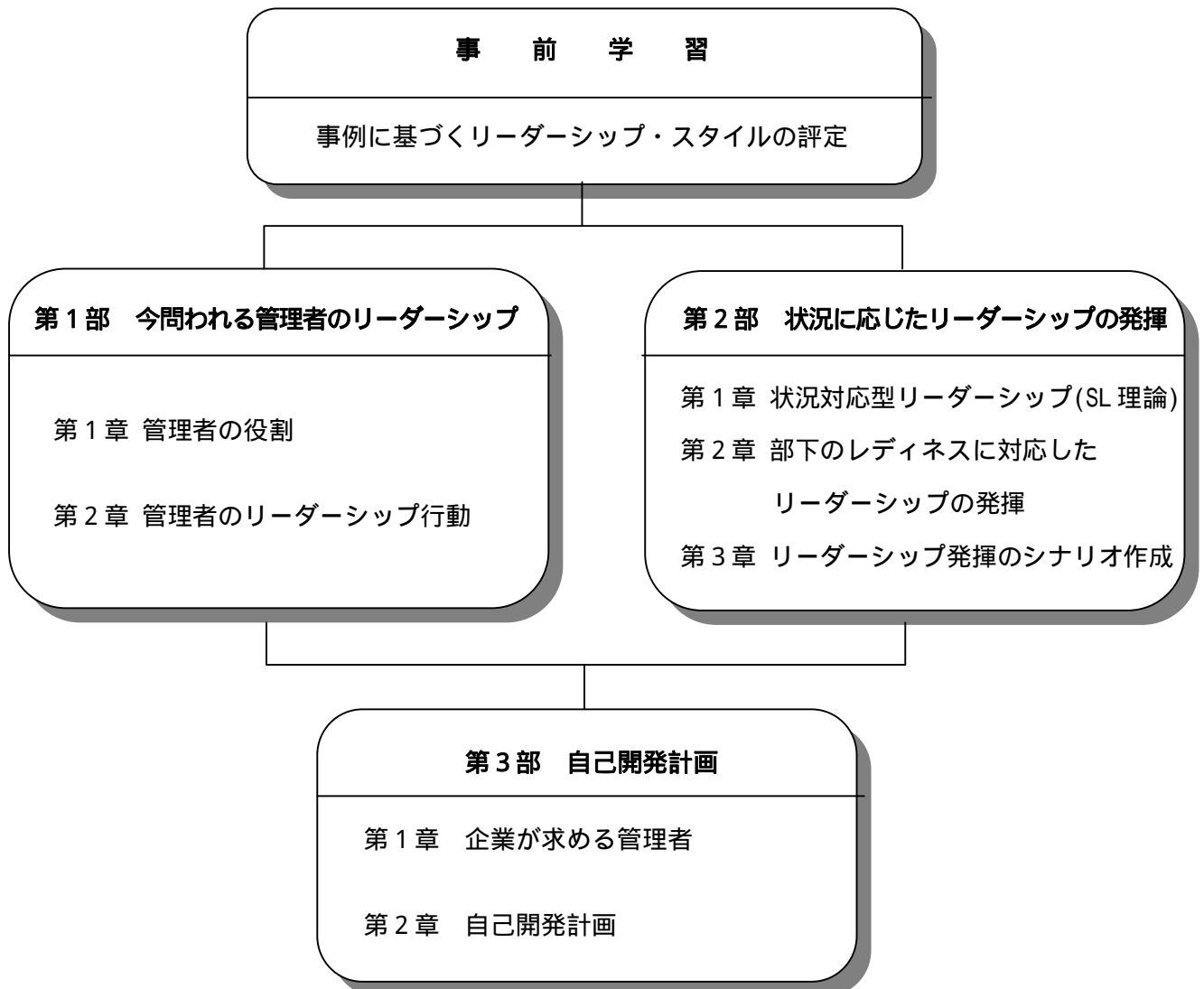
部下のレディネスは、職務的レディネスと心理的レディネスの2側面からとらえ、その項目は以下の通りです。

職務的レディネス(知識、技能、経験)

心理的レディネス(自信、達成意欲、コミットメント)

4 . テキスト構成

本コースのテキスト構成は次の通りです。



5 . 研修カリキュラム

第 1 日目		第 2 日目	
9:00	1 . 今、問われる管理者のリーダーシップ 1) 管理者の役割 (1) 時代背景とリーダーシップ (2) 管理者に求められること (3) 管理者の職場運営 (4) 管理者の仕事の二側面 (5)(事例) A 課長の疑問 (6) リーダーシップとは (7) リーダーシップを考える (8) リーダーシップ・パワーの源泉 2) 管理者のリーダーシップ行動 (1) 課題達成的行動 (2) 人間関係的行動	9:00	● 前日の振り返り
		9:30	3) リーダーシップ発揮のシナリオ作成 (1) 自己のリーダーシップ・スタイル分析 (2) 部下のレディネスの把握 ・職務的レディネスと心理的レディネスの判定・評価 (3) 自分の部下 2 名 (R1 , R3) を選出し、リーダーシップ発揮のシナリオ作成と発表
12:00		12:00	
	昼 食		昼 食
13:00	2 . 状況に応じたリーダーシップの発揮 1) 状況対応型リーダーシップ (SL 理論) 2) 部下のレディネスに対応したリーダーシップの発揮 (1) 部下のレディネスとリーダーシップ発揮の仕方 (事例) A 課長と 4 人の部下 (事例) A 君に対する悩み (事例) キャンペーン企画	13:00	3 . 自己開発計画 1) 企業が求めるリーダー (1) 企業が求める管理者像 2) 自己開発計画 (1) 自己開発計画書の作成 (2) 個人別発表
15:30		16:00	● 研修のまとめ
18:00			終 了
	夕 食		
19:00	(事例) 同僚との対話 (事例) Y 君への対応 (事例) B 課長の職場運営		
21:00			

6 . 実施要領

対 象 者

- 課長、係長クラスの方々、及び近い将来部門リーダーとしての活躍が期待されるの方々
- 貴社の選出される管理・監督者、中堅幹部の方々
- 1コース……………20名

時 間

- 1泊2日コース(16時間)
第1日目 9:00～21:00
第2日目 9:00～16:00

留意事項

- 事前学習における5事例については、指定日までに必ずニッコンへ提出をお願いします。
- 研修時に使用する用具類は、貴社で準備願います。具体的には進め方を打ち合わせる時お願いします。

以上。